

工具とジャッキ	86
格納場所	86
工具	86
ジャッキ	86
お出かけ前の点検	87
点検のしかた	88
11 ブレーキ液、クラッチ液の量	89
12 エンジン・オイルの量	89
13 オートマチック・トランスミッション・オイルの量	90
14 ウォッシュャー液の量	90
15 冷却水の量	91
16 Vベルトの張り具合	91
17 排気温警告灯の作動	92
18 ハンドルの遊び、ガタ	92
19 ブレーキ・ペダルの遊び、踏み残り代	93
20 駐車ブレーキ・レバーの引き代、効き具合	93
21 ランプ類の点検	93
22 タイヤの空気圧	94
23 タイヤのみぞの深さ	94
24 排気ガスの色	95

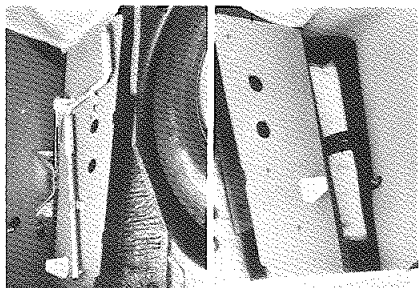
いざ！というときのために (故障の予防と緊急時処理法)

タイヤ交換	95
タイヤ・チェーンの装着	99
万一のときの処置	101
故障したら	101
夜間、休日の修理連絡先	101
エンストして始動できなくなったときは	101
保安炎筒の使い方	102
故障したときの応急処置	103
バッテリーあがりの処置	103
オーバー・ヒートの処置	104
けん引のしかた	104
ヒューズについて	105
ヒューズ・ボックスの位置と主回路名	105
ヒューズの交換およびサーキット・ブレーカー の復帰のしかた	107
電球について	109



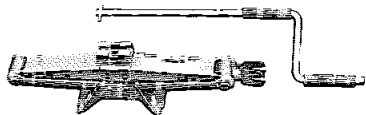
工具とジャッキ

■格納場所

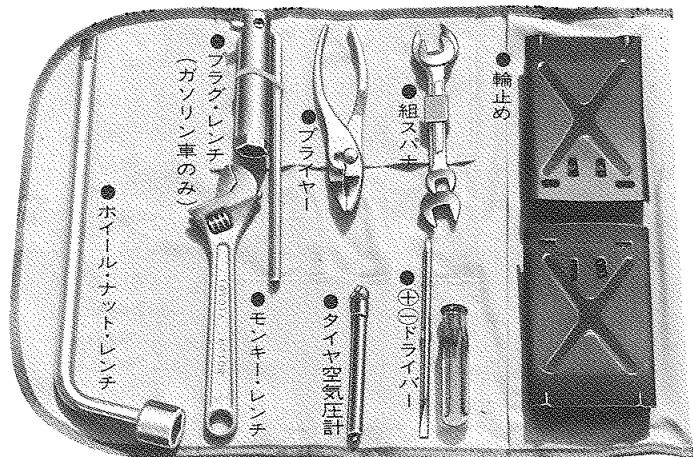


トランク左右のカバーの下に格納されています。

■ジャッキ



■工具



お出かけ前 の点検

仕業点検は毎日欠かさず行なってください。

1. 法令により実施するよう義務づけられています。
2. 高速で走るときは車に大きな負担がかかります。高速走行(80km/h以上)の予定がある場合には、●印の項目も点検してください。
3. 高速道路などで燃料、冷却水、オイル量の点検が不十分で走行できなくなると違反になります。

■点検は次の順序で行ないましょう。

- 印の項目は毎日点検してください。
- 印は、高速走行(80km/h以上)の可能な道路を走行する予定のある場合に追加される点検項目です。
- ▶印は作業要領です。次ページの「点検のしかた」をご覧ください。

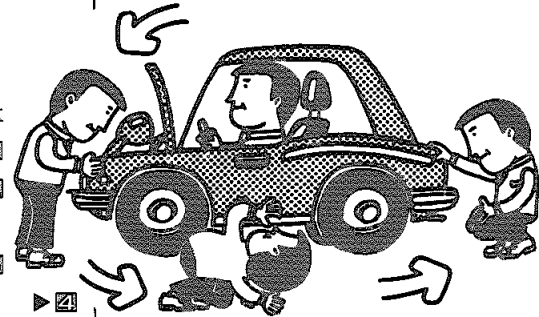
1 前日の異常箇所を点検

2 ボンネットをあけて

- ブレーキ液、クラッチ液の量 ▶ 1
- エンジン・オイルの量 ▶ 2
- オートマチック・トランスミッション・オイルの量 ▶ 3
- ウォッシャー液の量 ▶ 4
- 冷却水の量 ▶ 5
- Vベルトの張り具合、損傷 ▶ 6
- ラジエーター・キャップの取り付け状態

3 運転席にすわりエンジンを始動して

- 燃料計の作動
- 燃料は十分か
- 電圧計、油圧計の作動または警告灯の作動
- 排気温警告灯の作動 ▶ 7
- 方向指示表示灯の点滅具合
- ワイパーの作動、警音器の作動



- ウォッシャー液の噴射具合
- ガラスの曇り止め装置の作動
- フェンダー・ミラー、ルーム・ミラーの映り具合
- ハンドルの遊び、ゆるみおよびガタ

▶ 8

- ブレーキ・ペダルの遊び，踏み残り代 ▶ 9
- 駐車ブレーキ・レバーの引き代，効き具合 10
- ドア施錠装置の具合
- シート・ベルトの損傷，取り付け状態

4 車を前から見て

- ランプ類の点灯およびよごれ，損傷 ▶ 11
- ナンバー・プレートのよごれ，損傷
- タイヤの空気圧，き裂，損傷および異常摩耗 ▶ 12
- タイヤのみぞの深さ ▶ 13
- 車が傾いていないこと
- タイヤに金属片，異物がないこと

5 車を下からのぞいて

- 冷却水，オイル漏れ点検

6 車をうしろから見て

- ランプ類の点灯およびよごれ，損傷 ▶ 11
- ナンバー・プレートのよごれ，損傷

- 排気ガスの色 ▶ 14
- タイヤの空気圧，き裂，損傷および異常摩耗 ▶ 12
- タイヤのみぞの深さ ▶ 13
- タイヤに金属片，異物がないこと
- 反射器のよごれ，損傷
- 車が傾いていないこと

7 徐行しながら

- 水温計，速度計の作動
- ハンドルの重さ，振れ，取られ
- ブレーキの効き，片効き

点検のしかた



1. エンジン回転中は危険ですので次の部分には触れないでください。
 - 回転部分（ベルト，ファンなど）
 - 高温部分（排気管，ラジエーターなど）
 - 電気系統（プラグ・コードなど）
2. 紙や布など，燃えやすいものはエンジン・ルーム内に置き忘れないようにしてください。
3. ホース配管，配線ははずさないでください。
4. 車体端部などで手にケガをしないように注意してください。

① ブレーキ液、クラッチ液の量

▶ ブレーキ液

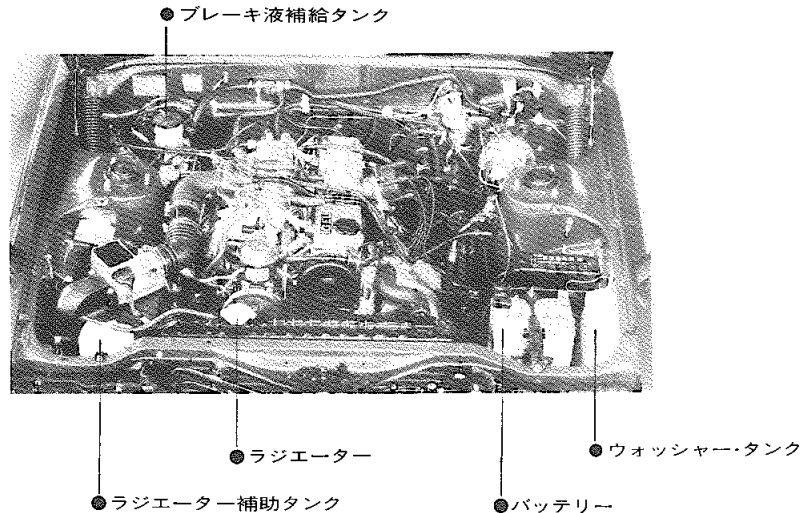
1. 補給タンクのMAX（上限）とMIN（下限）の間に液があるかを調べます。
2. 液の少ない時はトヨタ純正ブレーキ・フルード2400Gを補給します。



液の減りが著しいときは、ブレーキ系統に漏れがある場合があります。早目に点検を受けてください。

▶ クラッチ液

補給タンク上方の段つき部まで液があるかを調べます。



② エンジン・オイルの量



1. FとLの間にオイルがあるかを調べます。L以下の場合Fまで補給してください。FとLの間は約1ℓです。こぼれたオイルは確実にふき取ってください。
2. 補給オイルは、トヨタ純正キャスル製品もしくは、API基準SC,SD,ディーゼル車はCC,CD相当を使用してください。

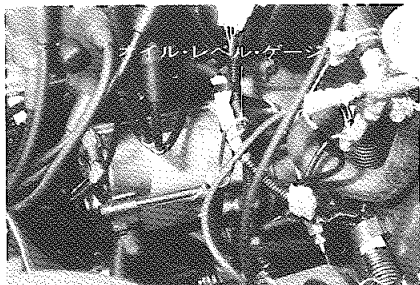
★点検は、水平な場所で行なってください。車が傾いていると正確な量を示さないことがあります。

★オイル量はエンジン始動前か、エンジンを止めてから少なくとも5分ぐらいたってから点検してください。オイルがエンジン各部に残っていると、正確なオイル量が測れません。

★F以上にオイルを補給するとエンジン不具合の原因になることがあります。

★オイルは外気温に応じて120ページの表により使い分けてください。

③ オートマチック・トランスミッション・オイルの量



1. 車を水平な場所に置き、駐車ブレーキ・レバーを引きます。
2. エンジンをアイドリング状態で、チェンジ・レバーを⑨～⑬まで動かした後⑭にします。
3. オイル・レベル・ゲージをきれいにふき、再びもどしてから点検します。
4. オイルが冷えているとき(約25℃)は、**COLD**の範囲内にあるかを調べます。オイルが暖まっているとき(約75℃、10分以上走行後の温度に相当)は、**HOT**の範囲内にあるかを調べます。

ガソリン車



ディーゼル車



5. オイルが不足したまま走行すると油圧が下がり走行不能になるおそれがあります。トヨタ純正キャスル・オート・フルード・スペシャルをオイル・レベル・ゲージその入孔より規定量まで補給してください。

★補給は、必ず規定量にしてください。
入れすぎるとオイル漏れになります。
★点検および補給後は、オイル・レベル・ゲージを確実に差し込んでください。

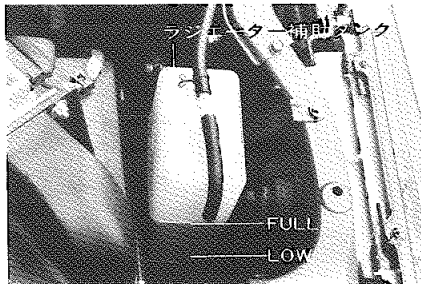
④ ウォッシャー液の量

1. タンク内がカラのままウォッシャー・スイッチを使用すると、モーターが破損することがあります。
2. ウォッシャー液は、トヨタ純正ウインドウ・ウォッシャー・フルードを次表にしたがってご使用ください。

使用地域・季節	希釈割合	凍結温度
通常	原液1に水2	-10℃
寒冷地の冬期	原液1に水1	-20℃
極寒冷地の冬期	原液のまま	-50℃以下

ウォッシャー液のかわりに石けん水などを入れると塗装のしみなどの原因となることがあります。

④冷却水の量



1. 冷却水の点検、補給はラジエーター補助タンクで行なってください。ラジエーター内の冷却水が減ると、ラジエーター補助タンクから、自動的に補給される構造になっています。
2. 冷却水の量は常にLOWとFULLの間に保ち、FULL以上は入れないでください。LOW以下のときは、冷却システムの漏れなどを点検し補給してください。
3. 冷却水の補給は、キャスル・ロング・ライフ・クーラントの濃度を30%または50%にしてご使用ください。
通常は2年で交換してください。



1. 点検は、冷却水が冷えているときに行なってください。
2. ラジエーター・キャップは冷却水の交換の時以外はあけないでください。
3. ロング・ライフ・クーラントの濃度を薄めて使用すると防錆力が低下し錆などの不具合原因となることがあります。
水だけの補給はしないでください。

⑤Vベルトの張り具合

図のように押えて、たわみ量を点検します。また、き裂やはがれがないかを調べてください。

たわみ量

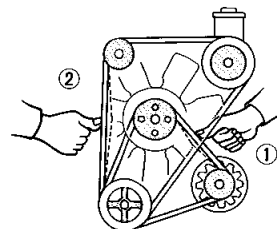
(単位 mm)

点検 エンジン	①ファン・ベルト	②P.S. ※ ベルト
13T-U	8~13	12~17
21R-U	7~11	7~11
18R-GEU	6~10	
1G-EU	14~21	17~24
5M-EU	10~16	8~12
L	10~15	10~15

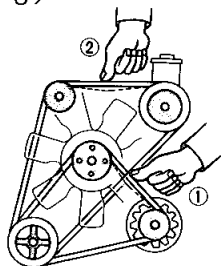
(ベルト中央部を10kgの力で押して)

※P.S.ベルトは、パワー・ステアリング付き車のみ

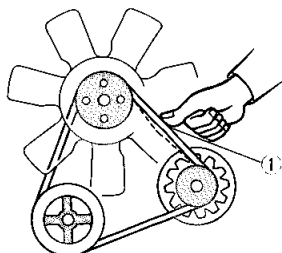
<13T-U>



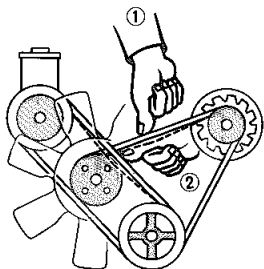
<2I R-U>



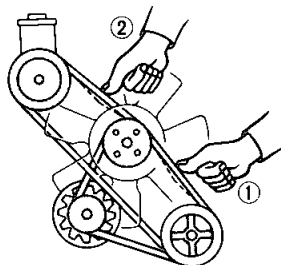
<18R-GEU>



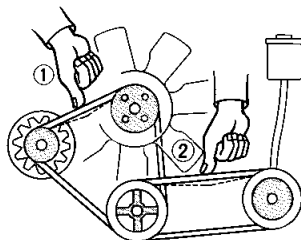
<1G-EU>



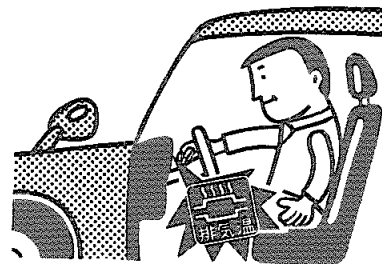
<5M-EU>



<L>

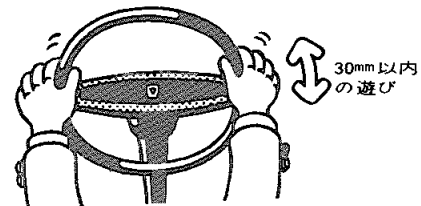


② 排気温警告灯の作動

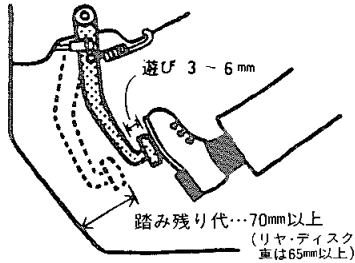


エンジン・スイッチをONにすると「排気温」のランプが点灯し、始動すると消灯することを確認してください。
11ページの「排気温警告灯」の項目を参照してください。

③ ハンドルの遊び、ガタ

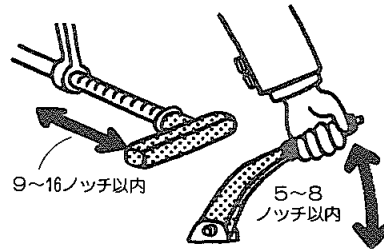


㊦ ブレーキ・ペダルの遊び、踏み残り代



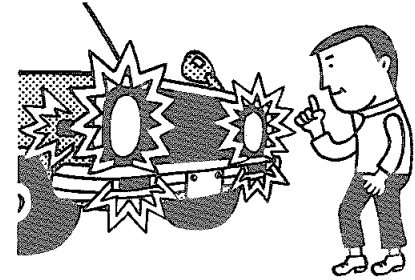
1. エンジンを停止した状態で、2～3回ペダルを踏み込んだのち遊びを点検します。
2. エンジンを始動し、アイドル状態でペダルを強く(約50kg)踏み込んで踏み残り代を点検します。
3. ペダルを踏みつづけたときにペダルがさらにはいり込むことがないことを確認してください。

㊦ 駐車ブレーキ・レバーの引き代、効き具合



ブレーキ・レバーを強く(約20kg)引いて、引き代を調べます。ノッチとは、レバーを引くときのカチカチ音、カチと1回音がすれば1ノッチです。

㊦ ランプ類の点検

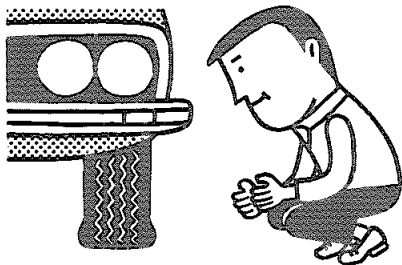


次のランプが点灯するかを点検し、よごれや損傷がないかを調べます。

前照灯
非常点滅灯
駐車灯
車幅灯
制動灯
尾灯
番号灯
計器照明灯
室内灯

エンジン・スイッチをONにして
方向指示灯
後退灯

図 タイヤの空気圧



走行前のタイヤが冷えているときにタイヤ空気圧計を使用して点検してください。

▶ タイヤ空気圧 ()内は高速時

タイヤ・サイズ	空気圧 kg/cm ²	
	前 輪	後 輪
6.45-14-4 P R	1.8	(2.1)
6.45-14-6 P R	1.9	(2.2)
175 S R 14	1.7 (2.0)	
185/70H R 14		

タイヤの標準空気圧表は、運転席ドア後部にも張ってあります。

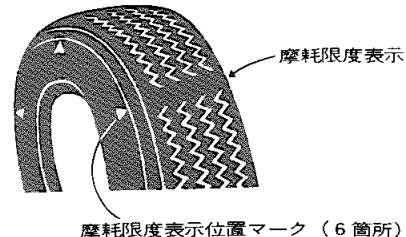
▶ タイヤ空気圧計の使い方

1. バルブ・キャップをはずし、空気が漏れないようにタイヤ空気圧計をバルブに押しつけてください。
2. 目盛板がとび出した後、タイヤ空気圧計をバルブからはなして目盛りを読みます。
3. 測定後、空気が漏れないことを確かめキャップをはめます。



1. スペア・タイヤの空気圧も調べましょう。
2. チューブレス・タイヤの場合、空気圧が極端に少なかったり、リムが変形したときなどは、タイヤとリムの密着が悪くなり空気が漏れるのでとくに注意してください。
3. タイヤの標準空気圧およびタイヤ・サイズ表は運転席ドア後部にも張ってありますのでタイヤの空気圧を調整するときには必ずご確認下さい。

図 タイヤのみぞの深さ



みぞが浅くなるとすべりやすくなり危険です。
1.6mm未満は違反になります。

摩耗限度表示（みぞの深さが1.6mmになったら現われます）が現われたら、タイヤを取り替えましょう。

排気ガスの色

無色または薄青色……………正常

黒色……………混合気が濃すぎるための不完全燃焼です。ただし、チョークがきいているときは異常ではありません。



白色……………エンジン・オイルが燃えている場合があります。ただし、気温の低い場合は水蒸気で白く見えることもあります。



タイヤ交換

★交通のじゃまにならず、安全に作業ができる場所を選び、車を水平な位置に止めてください。



ジャッキがはずれると車が急に傾き大変危険です。

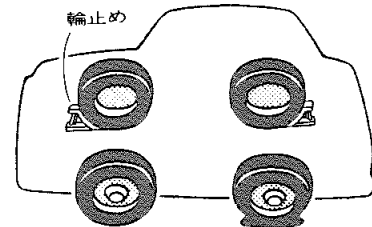
- ★路上では非常点滅灯を点滅させ、人はおろしてください。
- ★必要に応じて停止表示板を使用してください。
- ★作業をするとき車体端部などでケガをしないように注意してください。
- ★パンクした場合に、エアゾール製品の補修剤を使用したときは、早目にパンク修理をしてください。

★必ず同一の種類、指定されたサイズのタイヤを装着して下さい。異なった種類、指定外のサイズのタイヤを個々に装着することは、車の走行性能に影響を及ぼす場合もありますのでさせてください。

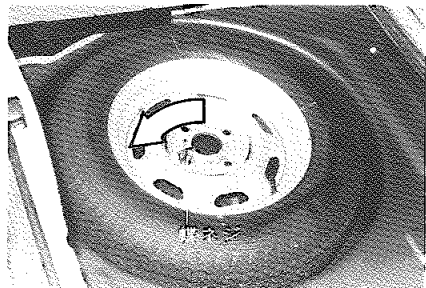
＜準備＞

- 1 駐車ブレーキ・レバーを引きます。チェンジ・レバーの位置を、トランスミッション車はロー(1速)またはリバース(後退)、オートマチック・トランスミッション車はPに入れます。
- 2 工具、ジャッキを取り出し輪止めをします。

左側パンク時……………右側前後のタイヤの外側に
 右側パンク時……………左側前後のタイヤの外側に



- 3** スペア・タイヤを取り出します。トランクに格納してあります。蝶ネジを左に回して取り出してください。



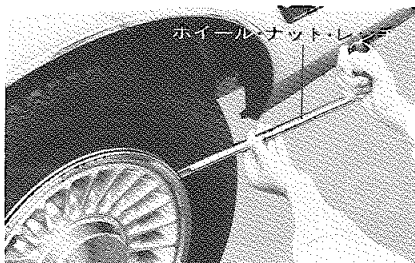
- 4** スペア・タイヤを、パンクしたタイヤの車体の下に置きます。(ジャッキがはずれた場合の危険防止のため)

- 5** ホイール・キャップ、センター・キャップなどを取りはずします。ホイール・ナット・レンチの柄の先を使うと楽にはずれます。直接手をかけて取ると指をケガすることがありますので注意してください。

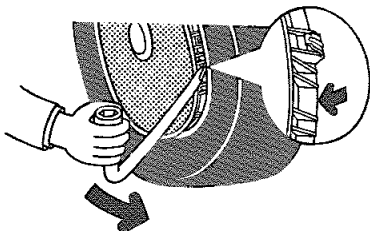
▶ 樹脂ホイール・キャップの取りはずしかた

グランド車

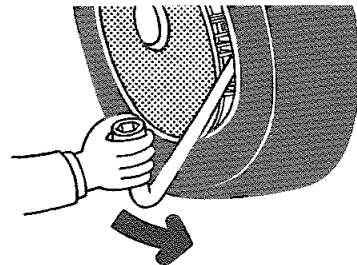
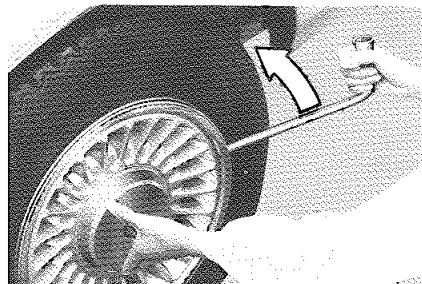
1. ホイール・ナット・レンチの先端を差し込んで、すき間をつくります。



2. ホイール・ナット・レンチの先端を図の位置に差し込んでホイールとキャップの間にホイール・ナット・レンチが十分はいるまでタイヤ側にこじってください。



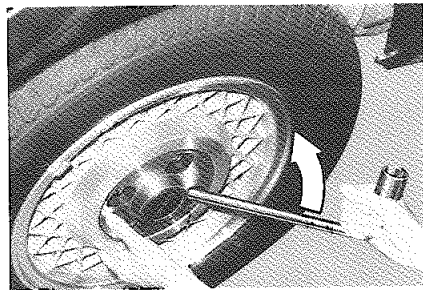
3. 図のようにホイール・ナット・レンチを差し込みタイヤ側に強くこじれば、はずれます。



☆ 直接手をかけて取ると指にケガをすることがあります。

☆ ホイール・ナット・レンチ以外は使用しないでください。

▶アルミ・ホイール装着車のセンター・キャップの取りはずし方

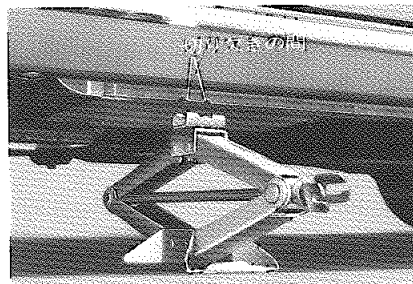


ホイール・ナット・レンチの柄の先をホイール・キャップの穴に差し込み、ホイール・ナットの頭部を支点にして矢印の方向にこじると楽にはずせます。
 ☆直接手をかけて取ると指にケガをすることがあります。
 ☆ホイール・ナット・レンチ以外は使用しないでください。

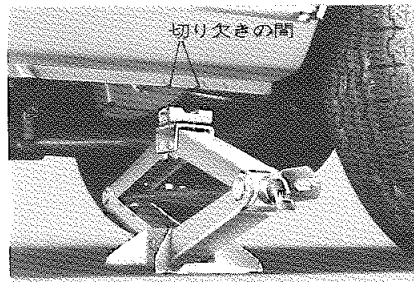
<ジャッキのセット>

1 ジャッキをセットします。
 所定の位置に確実にセットしてください。(車体側の切り欠きの間)

▶ジャッキ・セット位置
 <フロント側>



<リヤ側>



☆注意

ジャッキは、地面の平らな固くて安定できる所にセットしてください。

2 ホイール・ナットをゆるめます。
 ホイール・ナット・レンチでナットを手で回るくらいまでゆるめます。

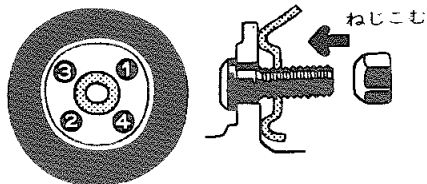
3 車をタイヤと地面とが、少しはなれるまでジャッキ・アップします。

☆注意

万一、ジャッキがはずれると大変危険です。ジャッキ・アップしたら車の下には絶対にもぐらないでください。

<タイヤ交換>

- 1 ナットをはずし、タイヤを取り替えます。
- 2 ナットを仮り締めします。
ナットのテーパ部がホイール穴のシート部に軽く当たり、タイヤがガタつかない程度までナットを締めます。
- 3 ジャッキを下げ、図の順序で2～3度にわたり、レンチを使用して手で十分締め付けます。



レンチを足で踏んだり、パイプなどを使用して必要以上に締め付けしないでください。

- 4 ホイール・キャップやセンター・キャップなどを取り付けます。
タイヤのバルブ（空気口）に、ホイール・キャップの穴を合わせてください。
- 5 工具、ジャッキ、タイヤを片づけます。
トランクにタイヤを格納するときには確実に固定してください。
- 6 パンク時に限らず、タイヤを脱着したときは、タイヤを取り付けて、1000km走行後、再度ホイール・ナットを締め付け、ゆるみがないことを点検してください。

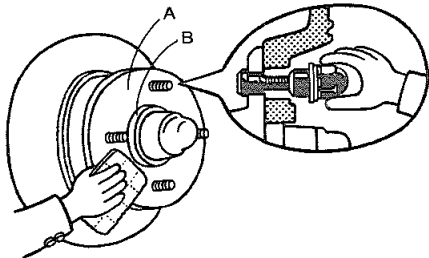


1. スペア・タイヤの空気圧は使用するとき調整してください。
2. やむをえず未調整のまま走行するときはひかえめな速度で走行してください。
3. 空気圧が低いまま走行を続けると、高速走行時タイヤが疲労しバースト（破裂）するおそれがあります。

4. また、チューブレス・タイヤの場合はタイヤとリムの密着が悪くなり空気が漏れやすくなり危険です。
●リムを変形させるおそれもあります。
●急ハンドル時タイヤがリムからはずれ事故を起こすおそれがあります。
5. タイヤ空気圧を点検するときには下記の事項を守ってください。
●走行前のタイヤが冷えているときにタイヤ空気圧計を使用して点検すること。
●走行後は標準空気圧より高いのが普通です。減らさないでください。
6. タイヤ交換後、走行中ハンドルや車体に振動が出た場合はタイヤのバランスを修正してください。

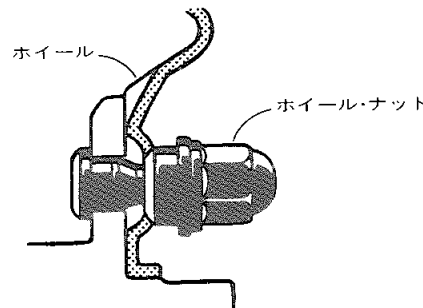
〈アルミ・ホイール装着車〉＊

1. 取りはずしたホイールを直接地面に置くとホイール面を傷つけるおそれがあります。
2. バランス・ウエイトおよびナットはトヨタ純正のアルミ・ホイール専用品をお使いください。
3. 傷、変形のあるアルミ・ホイール再使用しないでください。
4. アルミ・ホイールを再び車面に取り付けるとき図のA、B部のよごれをきれいにふいてからBの部分を確実にはめ、ホイール・ボルトが取り付け穴の中心にくるようにして、ホイール・ナットの座金がホイールに当たるまで手で締めてください。



5. ホイール・ナットを締めすぎないように注意してください。
6. センター・キャップ取り付けビスを締めすぎないでください。
7. ホイールに傷をつけるおそれがありますので、タイヤ・チェーンを装着しないでください。
雪路走行の予定があるときはスチール・ホイールに付け替えてください。取り付けの場合、ホイール・ナットは下図のように取り付けてください。

スチール・ホイール装着時



タイヤ・チェーンの装着

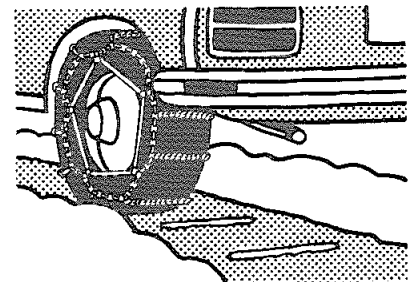
★タイヤ・チェーンは後2輪に取り付けます。

★車を水平な位置に止めます。

★路上では非常点滅灯を点滅させ、人はおろしてください。

★必要に応じて停止表示板を使用してください。

★作業をするとき車体端部などでケガをしないように注意してください。



＊印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

〈取り付け方〉

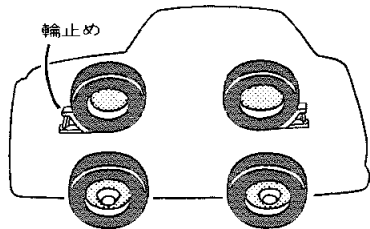
1 輪止めをします。

左側チェーン取り付け時……………

右側前後のタイヤの外側に

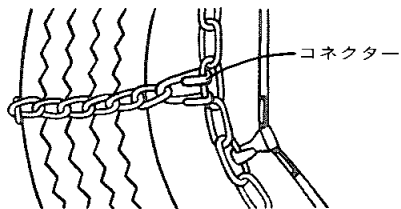
右側チェーン取り付け時……………

左側前後のタイヤの外側に



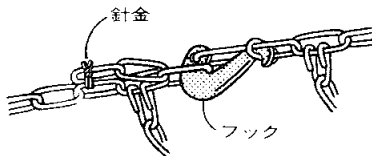
2 後輪をジャッキ・アップします。
(ジャッキ・セットのしかたは95ページの「タイヤ交換」の項目を参照してください。)

3 コネクターの折り曲げを外にして
タイヤを回しながらチェーンをかぶせます。

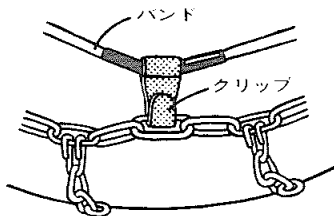


4 チェーンの両端をいっぱい引っ張って内側のフックを、次に外側を連結します。

余ったチェーンは車体に当たるのを防止するために図のように針金で結びます。



5 チェーン・バンドはクリップの爪を外向きにし、チェーンにかけます。



6 ジャッキをおろし輪止めを、はずします。

2～3分走行後、チェーンのゆるみ、はずれなどがないことを確認してください。

〈取りはずし方〉

1 チェーン・バンドをはずし、針金を取り、フックは内側から先にはずします。

2 車を少し動かし、チェーンを取り出します。



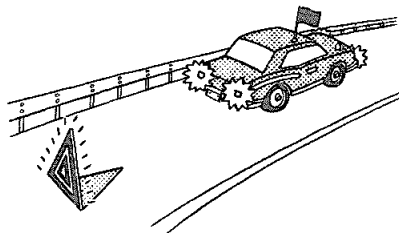
1. タイヤ・チェーンは、車のタイヤ・サイズに合ったものを使用してください。
2. タイヤ・チェーンを装着した場合は、次の速度で走行してください。
雪路、凍結路30km/h以下
(乾燥路面でのタイヤ・チェーンの装着はできるだけさけてください。)
3. 前輪にはタイヤ・チェーンを装着することはできません。
4. 樹脂ホイール・キャップ付き車の場合ホイール・キャップに傷がつくおそれがありますので、タイヤ・チェーンを装着する際には、ホイール・キャップをはずしてください。

5. アルミ・ホイール装着車はホイールに傷をつけるおそれがありますので、タイヤ・チェーンを装着しないでください。

雪路走行の予定があるときはスチール・ホイールに付け替えてください。

万一のときの処置

■故障したら



1. 車を路肩に寄せ非常点滅灯を点滅させるか、赤旗などを表示します。
2. 高速道路や自動車専用道路では、後方からくる車が200m手前で故障車を確認できるように停止表示板を置くことが、法律で義務づけられています。

■夜間、休日の修理連絡先

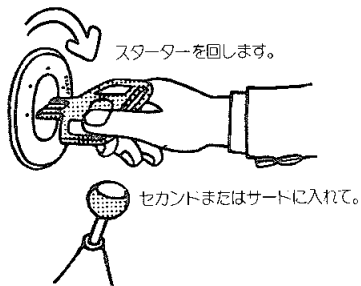
“整備手帳”巻末のトヨタ・サービス網をご覧ください。

■エンストして始動できなくなったときは

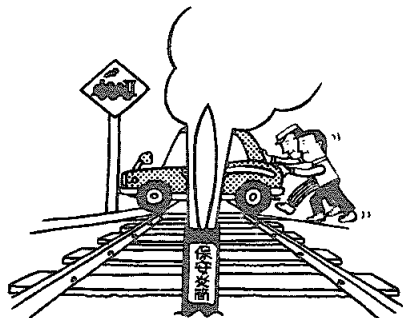
1. 付近に人がいる場合は安全な場所まで押してもらってください。



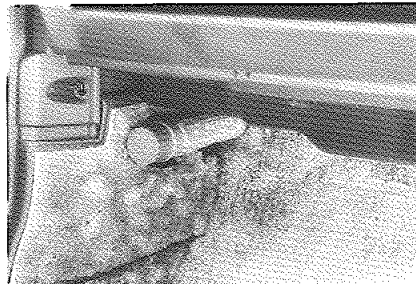
2. トランスミッション車の場合、急を要するときはスターターで抜けてください。ギヤをセカンドまたはサードに入れ、スターターを回します。
このときクラッチ・ペダルから足をはなしておきます。また平坦な路の場合はトップにすると早く抜け出せます。



3. 踏切などで動かなくなり電車が来そうになったり緊急を要するときは保安炎筒で合図してください。次の「保安炎筒の使い方」の項目を参照してください。



■保安炎筒の使い方



計器盤左下部に備え付けてあります。踏切内での故障など、非常時に使用します。

1. 発炎時間は約5分間。
使用方法をよく読んで万一に備えてください。
2. 保安炎筒の有効期間は3年です。
ラベルに表示されている有効期限を確認しておきましょう。



1. お子様にはさわらせてないでください。
2. 非常信号用としてのみご使用ください。
3. 使用中は筒先を顔や体に向けたり

近づけたりしないでください。火傷の危険があります。

4. 発炎時間は約5分間ですので、非常点滅灯を併用するようにしてください。

故障したときの の応急処置

■ バッテリーあがりの処置

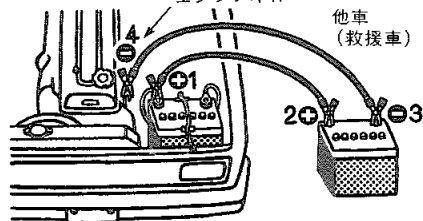
バッテリーあがりによりエンジン始動ができない場合、ブースター・ケーブルがあれば、他車のバッテリーを電源としてエンジンを始動することができます。

作業にあたっては必ず次の手順を守ってください。

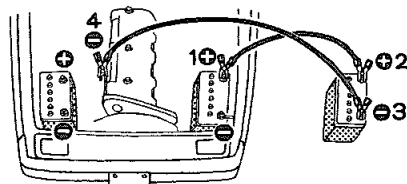
1. ブースター・ケーブルを図の番号の順序に接続します。

⊕⊖を間違えないでください。

自車
(バッテリーあがり車)
エンジン本体へ

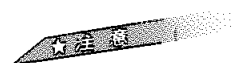


ディーゼル車でバッテリーが2個の場合



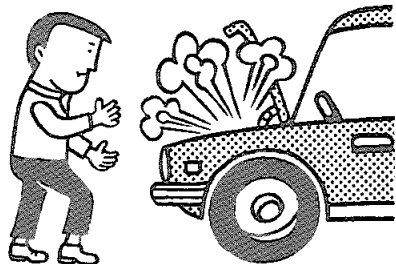
☆ディーゼル車のバッテリーは2個ですが、24Vではありません。必ず12V車を使用してください。

2. 接続後、他車のエンジンを始動させ回転数を少し高目にしておきます。
3. 自車のエンジンが始動したら、取り付けたときの逆の順序でブースター・ケーブルを取りはずします。バッテリーはすぐにガソリン・スタンドやトヨタ・サービス工場で完全充電してください。



1. 絶対に押しがけによる始動はやめてください。〈触媒付き車〉
2. ケーブル接続の際には、⊕と⊖端子を絶対に接触させないでください。
3. ケーブルが冷却ファンやベルトに巻き込まれないように接続には十分注意してください。
4. エンジン回転中に、バッテリーの端子をはずさないでください。電気部品の故障原因になります。
5. バッテリーを交換するときは、両方のバッテリーの⊖側端子をはずしてください。(ディーゼル車でバッテリーが2個の場合)

■ オーバー・ヒートの処置

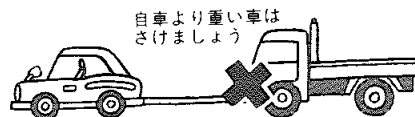
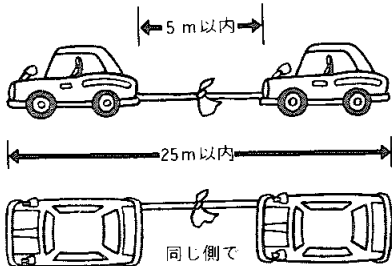


1. 安全な場所へ車を止めてください。
2. エンジンをかけたままで、ボンネットをあけ、風通しをよくします。
3. 水温計の針が下がってきたら、エンジンを止めます。
4. エンジンが十分に冷えてから、冷却水の有無、Vベルトのゆるみを点検します。



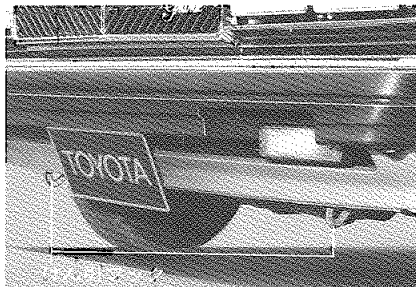
あわててラジエーター・キャップをはずすと、冷却水には圧力がかかっていますので、蒸気や熱湯が吹き出して思わぬ火傷をすることがあります。

■ けん引のしかた



▶ ロープをかける位置

<フロント側>



<リヤ側>



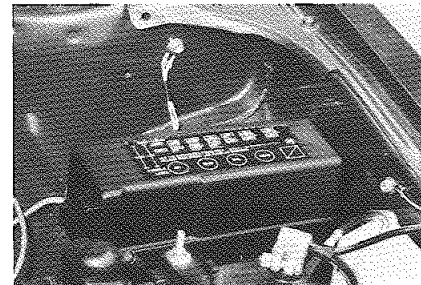
けん引車は急発進、急停車をしないようにし、けん引される車はけん引車の制動灯に注意し、常にロープをたるませないように気をつけましょう。

☆注意

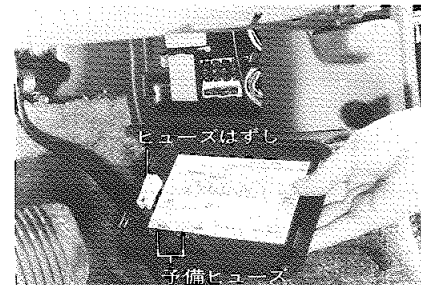
1. チェンジ・レバーを④の位置にしてください。
2. キーはLOCKの位置まで回さないでください。キーが抜けるとハンドルが切れなくなり危険です。
3. エンジンが停止していると、いつもよりブレーキの効きが悪くなります。
4. パワー・ステアリング付き車はハンドル操作が非常に重くなります。できる限りエンジンを始動してください。
5. 長坂路を下るときはブレーキが過熱し効かなくなるおそれがあります。レッカー車にけん引してもらってください。
6. トランスミッション内部に故障があり、動かすと不具合があると思われるときは、後輪をつり上げるかプロペラ・シャフトを取りはずしてからけん引してください。

▶オートマチック・トランスミッション車の場合

1. けん引される前にオートマチック・トランスミッション・オイルの量を調べ、不足の場合は補給してください。
2. チェンジ・レバーを④の位置にし30km/h以下で走行してください。また、けん引される距離は80km以内にしてください。
3. オートマチック・トランスミッション・オイルがない場合、またはトランスミッション内部に故障があるときは後輪をつり上げるか、プロペラ・シャフトをはずしてからけん引してください。

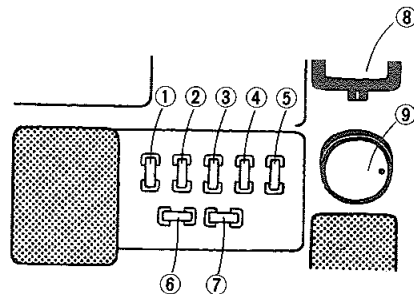
ヒューズ
について■ヒューズ・ボックスの位置と主回路名
<エンジン・ルーム内ヒューズ・ボックス>

<運転席足元ヒューズ・ボックス>



ヒューズ・ボックスは運転席足元、エンジン・ルーム内にあります。運転席足元のヒューズ・ボックスの中には、ヒューズおよびサーキット・ブレーカーがあります。また、それぞれの受け持っている配線系統(主回路名)は次の表を参照してください。

<運転席足元>



<ヒューズの受け持つ回路>

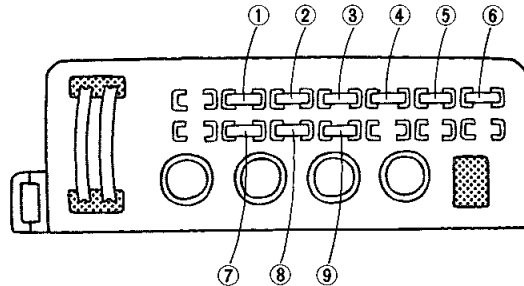
①	ターン	7.5 A	方向指示表示灯
②	エレクトロニクス, リヤ・ワイパ	15 A	オーバードライブ, オート・ドライブ, ESC, リヤ・ワイパー/ウォッシャー
③	メータ	7.5 A	警告灯類, エア・コンディショナー, ヒーター, 計器, 後退灯, 速度警報ブザー, 排気温警告灯
④	ルーム ランプ	5 A	室内灯, 時計, 電動フェンダー・ミラー, クルーズ・コンピューター, トランク灯, 半ドア警告灯, フロント・スポット・ライト
⑤	イグニション	7.5 A	充電警告灯, EFIメイン・リレー, 排気コンピューター, 燃料止めソレノイド
⑥	ラジオ	7.5 A	ラジオ, ステレオ
⑦	ライター	15 A	シガレット・ライター

<サーキット・ブレーカーの受け持つ回路>

⑧	リヤ・ウインドゥ・ガラス曇り取り装置
⑨	電動ウインドゥ, 電磁式ドア施錠装置, サン・ルーフ

(注) 予備ヒューズは運転席足元ヒューズ・ボックスのカバーに取り付けられています

〈エンジン・ルーム内〉



〈ヒューズの受け持つ回路〉

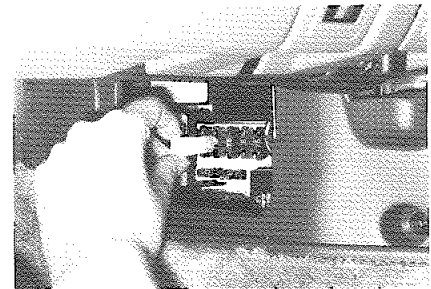
①	チャージ	7.5A	電熱チョーク
②	エンジン	15A	ボルテージ・レギュレーター、オルタネータ
③	ハザード、ホーン	15A	警音器、非常点滅灯
④	テール・ランプ	15A	尾灯、番号灯、車幅灯、計器照明、ラジオ照明、ヒーター照明、シガレット・ライター照明、グローブ・ボックス・ランプ、チェンジ・レバー位置表示照明、時計照明(デジタル時計を除く)
⑤	ヘッドランプ(右)	15A	前照灯(右側)
⑥	ヘッドランプ(左)	15A	前照灯(左側)
⑦	EFI	15A	EFIコンピューター
⑧	ワイパー	20A	ワイパー/ウォッシャー
⑨	ストップ	15A	制動灯、オーバードライブ作動表示灯、駐車灯

■ ヒューズの交換およびサーキット・ブレーカーの復帰のしかた

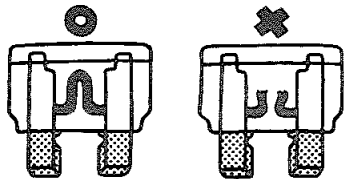
各ヒューズ、サーキット・ブレーカーの受け持っている回路が作動しないときは、ヒューズ切れ、サーキット・ブレーカーの回路切れが考えられます。そのようなときは、次のように処置してください。

▶ ヒューズ切れ

1. 運転席足元ヒューズ・ボックスの中にヒューズはずしがついています。



2. ヒューズにヒューズはずしを差し込んで引き抜いてください。

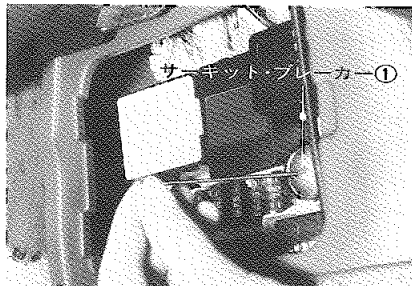


3. ヒューズが上図の右側のような
れば、ヒューズ切れです。予備ヒ
ューズと交換してください。

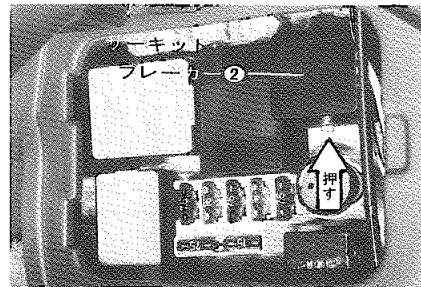


1. 指定のヒューズ以外のものは使用
しないでください。針金、銀紙な
どを使用すると電線の過熱焼損の
原因になります。
2. 予備ヒューズを取り付ける前に必
ず原因を調べてください。
取り替えてもまたヒューズが切れ
る場合は点検を受けてください。

▶サーキット・ブレーカーの回路切れ



1. サーマット・ブレーカー①の受け
持つ回路の装備品（リヤ・ウィン
ドゥ・ガラス曇り取り装置）が作
動しないときは、サーキット・ブ
レーカーの穴に軽く針金を、カチ
ッという音のする位置まで差し込
んでください。これでサーキット・
ブレーカー①の回路が復帰します。
マッチ棒など折れやすい物は使用しな
いでください。



2. サーマット・ブレーカー②の受け
持つ回路の装備品（電動ウィン
ドゥ、電磁式ドア施錠装置、サン
ルーフ）が作動しないときは、サ
ーマット・ブレーカーのボタンを
押してください。これでサーキッ
ト・ブレーカー②の回路が復帰し
ます。
3. 以上の操作をしても、装備品が作
動しないときや、サーキット・ブ
レーカーの回路が再び切れる場合
は、すぐにサービス工場で点検を
を受けてください。



エア・コンディショナーのサーキット・ブレーカーは、助手席側計器盤内のリレー・ボックスの中にあります。エア・コンディショナーの回路切れと思われるときは、サービス工場へご連絡ください。

電球について

■電球について

▶フロント側

前照灯 *	65/60W
車幅灯/フロント駐車灯	5 W
フロント方向指示灯 (非常点滅灯)	23W
サイド方向指示灯 (非常点滅灯)	5 W

▶リヤ側

リヤ方向指示灯 (非常点滅灯)	23W
制動灯, 尾灯/駐車灯	21/ 5 W
後退灯	23W
番号灯	5 W

▶室内

室内灯	10W
フロント・スポット・ライト	8 W
リヤ・スポット・ライト	10W
エンジン・キー照明灯	1.4W

☆電球の交換は必ず同容量のものにしてください。

☆ハロゲン・ランプ(ヨウ素入り電球)は使用時電球が高温になるため、表面に油などが付着すると寿命が短くなります。

電球交換時に手などがガラス部に触れないように注意してください。

